

海外留学生のキャリア意識と就職活動調査

2026年4月発行

日本から海外大学への留学者は、コロナ禍の渡航規制の影響で一時大幅に減少したが、その後回復を続けている。優秀な人材の獲得競争が激化する中、語学力や異文化理解力を持つ留学経験者の採用ニーズは一層高まっている。株式会社キャリアタスでは、海外の大学で学ぶ正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観や就職活動に関する調査を実施した。比較可能なものに関しては、国内学生（キャリアタス就活・学生モニター）の調査結果を引用しながら、その特徴を分析したい。

【主な調査内容】

- 1. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由 P2
- 2. 志望業界 P3
- 3. 志望職種 P4
- 4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点、希望する働き方 P5
- 5. ベンチャー/スタートアップ企業への関心 P7
- 6. 就職活動の情報源 P7
- 7. 企業研究で入手しやすい情報/もっと発信してほしい情報 P8
- 8. 企業に評価してもらいたいこと P9
- 9. インターンシップ等の経験 P10
- 10. 留学をした感想 P11

【参考】留学費用

《調査概要》

調査対象 : CFN (www.careerforum.net) に登録している海外留学生※のうち、卒業時期が2025年5月以降の者 11,372人
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2026年2月25日～3月14日
 有効回答数 : 629人

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系	理系	卒業(予定)年月	全体	留学先地域・国	全体
正規留学	252	163	88	～2026年3月	165	北米	280
交換・派遣留学	337	298	32	～2027年3月	280	英国	109
語学留学	36	-	-	2027年4月～	184	その他ヨーロッパ	140
その他	4	-	-			オセアニア	39
						アジア	54
						その他	7

※「海外留学生」＝日本から海外の大学に留学する正規留学生、交換・派遣留学生等

※国内学生の調査結果は「キャリアタス就活 学生モニター2027 調査」より

1. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

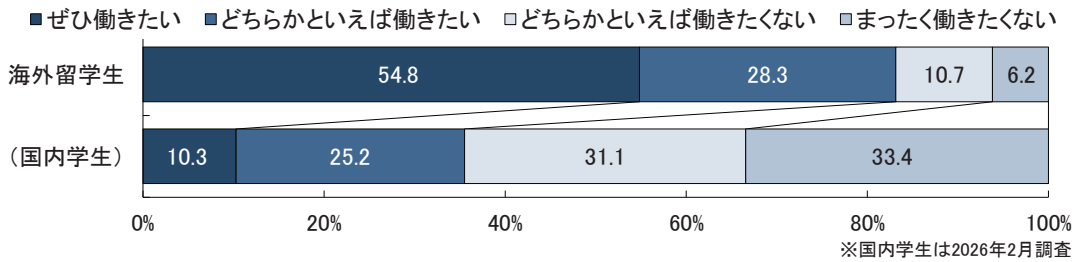
海外の大学への留学経験をもつ留学生は、どのような仕事に就きたいと考えているのだろうか。志望業界や職種のほか、キャリア観などをいくつかの指標で尋ねた。

まず、日本国外（海外）での勤務について希望を尋ね、国内の大学・大学院で学ぶ学生（以下、国内学生）と比較した。留学生は「ぜひ働きたい」が5割強（54.8%）。「どちらかといえば働きたい」（28.3%）も含めると8割を超え（計83.1%）、海外勤務への意欲は高い。一方、国内学生は3割台にとどまる（計35.5%）。

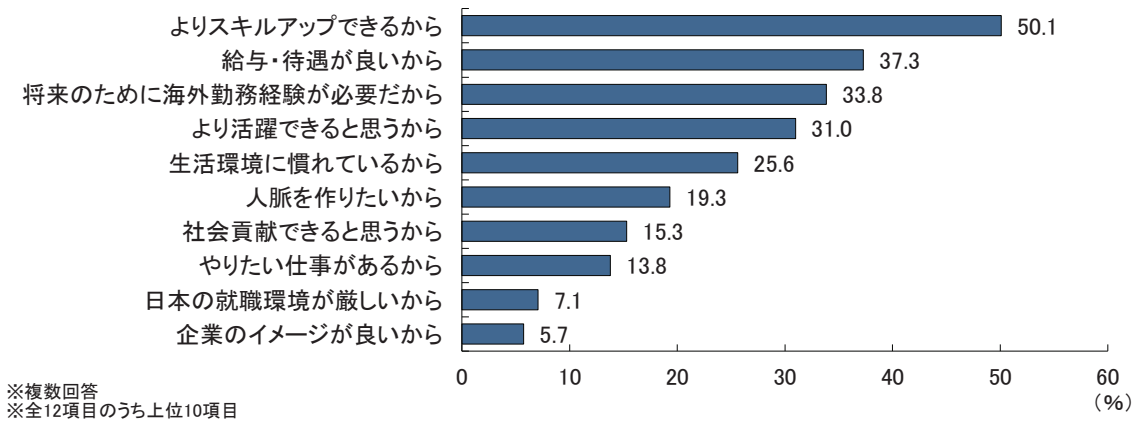
留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」が最も多く、5割が選んだ（50.1%）。次いで、「給与・待遇が良いから」（37.3%）、「将来のために海外勤務経験が必要だから」（33.8%）、「より活躍できると思うから」（31.0%）が3割台で続き、成長志向の強さがうかがえる。

働いてみたい国や地域は、「ヨーロッパ」（65.0%）、「北米」（60.2%）が多く、6割を超える。留学先として人気が高い地域ほど、勤務意向も高く、留学先の国・地域と継続的に関わりたいと考える人も多いのだろう。

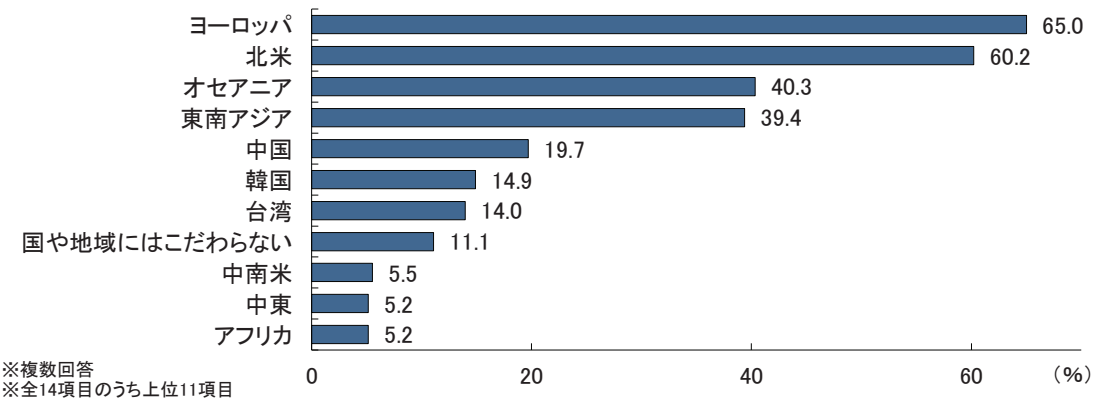
日本国外での勤務希望



日本国外で働きたい理由



将来の希望勤務国・地域



2. 志望業界

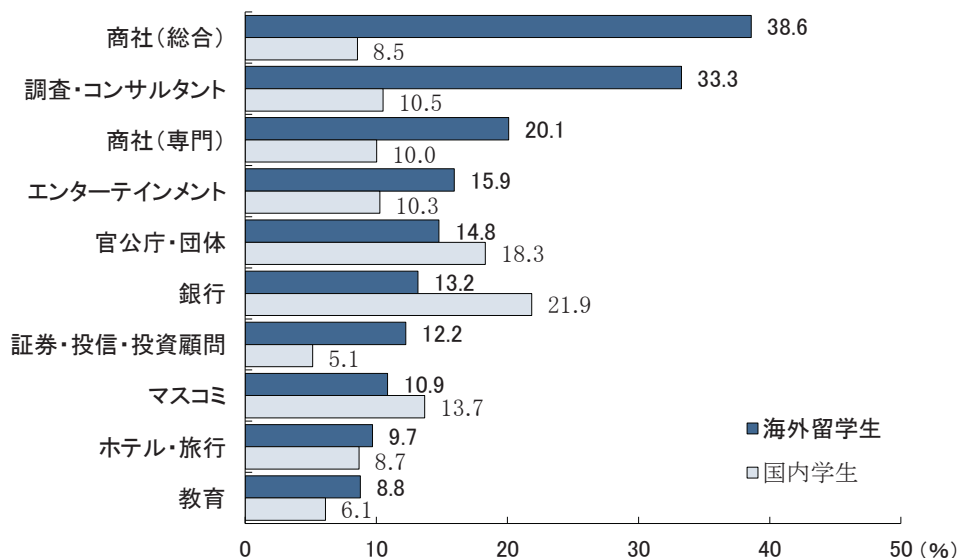
続いて、志望業界を文理ごとに集計し、国内学生と比較した。

文系を見ると、留学生は「商社（総合）」（38.6%）と「調査・コンサルタント」（33.3%）の2業界に人気集中している。同時期に調査した国内学生の文系は「銀行」が最多で、ITが次点。

理系も、留学生の1位は「商社（総合）」（34.2%）。国内学生は4.0%にとどまる。2位の「調査・コンサルタント」（26.1%）も、国内学生は8.8%と大きな開きが見られる。続く「情報処理・ソフトウェア」は、留学生・国内学生ともに人気が高い。国内学生の理系はITのほか「電子・電機」「素材・化学」「医薬品・医療関連・化粧品」といったメーカーが上位に並んでいる。

文理とも、留学生と国内学生とで目指す業界の違いが顕著に表れている。

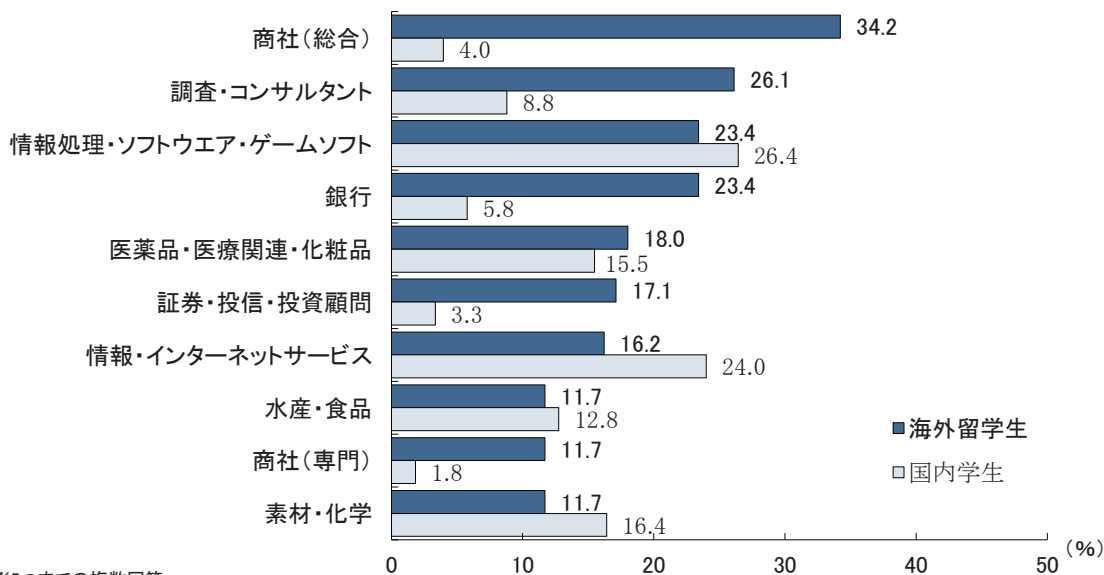
志望業界【文系】



※5つまでの複数回答
 ※全40項目のうち海外留学生の上位10項目

※国内学生は2026年3月調査

志望業界【理系】



※5つまでの複数回答
 ※全40項目のうち海外留学生の上位10項目

※国内学生は2026年3月調査

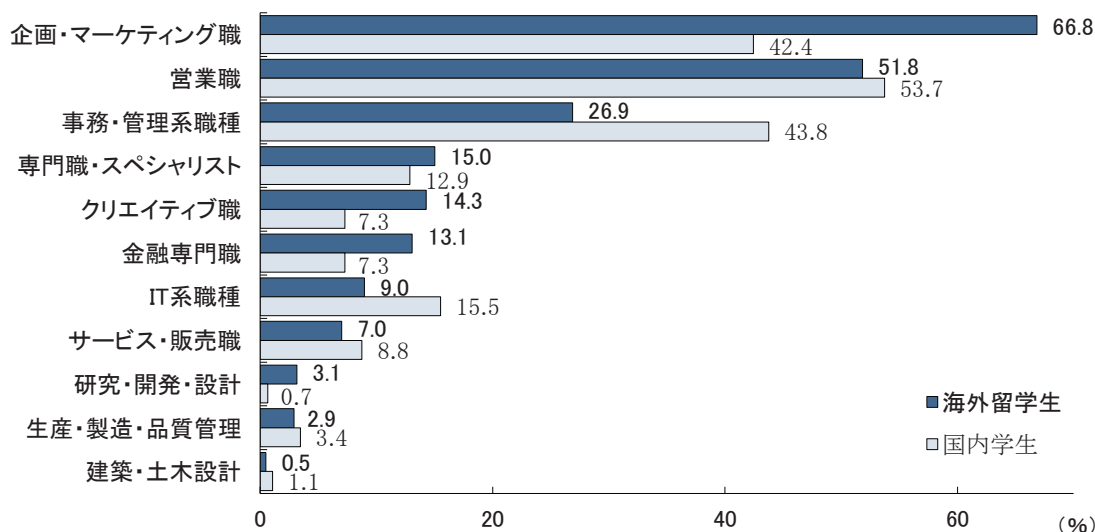
3. 志望職種

志望する職種を、11職種から3つまで選んでもらい、文理ごとに集計した。

留学生の文系は「企画・マーケティング職」（66.8%）が圧倒的に多く、国内の文系学生（42.4%）より大幅に高い。「営業職」は、留学生と国内学生ともに半数強が志望している。「事務・管理系職種」は、国内学生の4割強（43.8%）が志望しており、留学生（26.9%）を大幅に上回る。

理系も、留学生は「企画・マーケティング職」が最多で、3割強（32.2%）。「研究・開発・設計」「営業職」（ともに28.7%）、「IT系職種」（27.0%）が続き、全体的にポイントは分散。一方、国内学生は「研究・開発・設計」（41.9%）、「IT系職種」（35.2%）に人気集中。コンサルタントや商社の志望者も多い留学生と、メーカー・IT志望者の多い国内学生とで、志望職種にも違いが表れている。

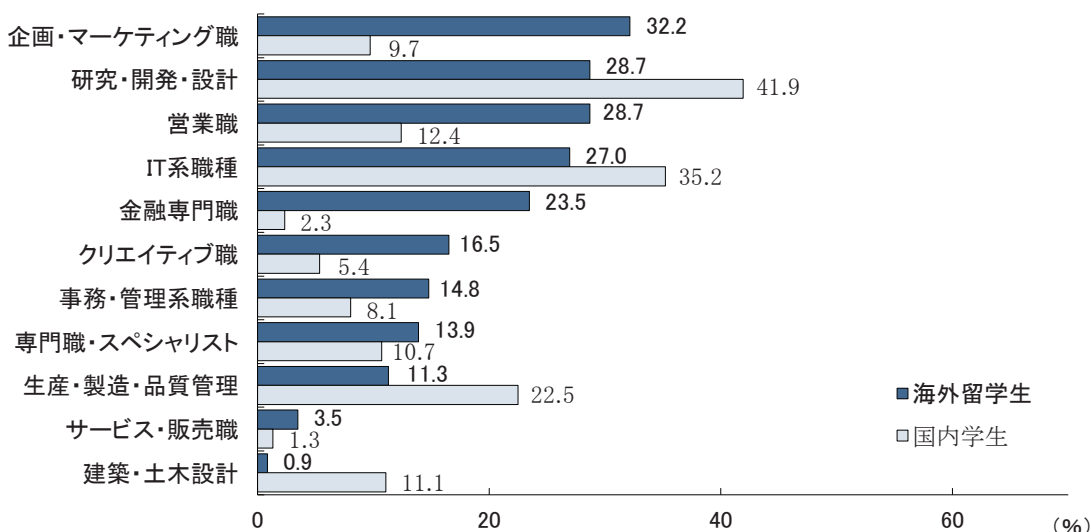
志望職種【文系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2026年3月調査

志望職種【理系】



※3つまでの複数回答

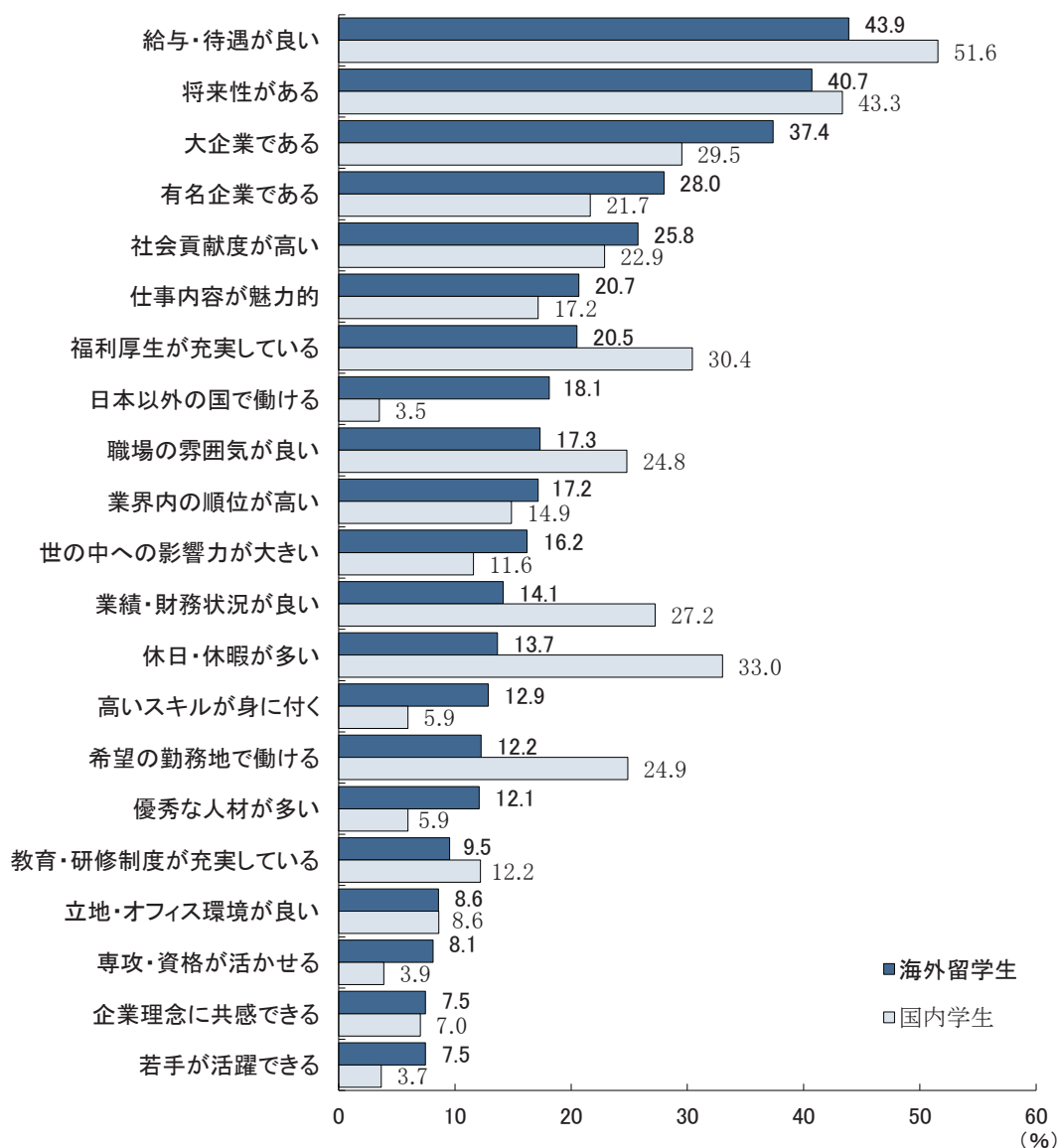
※国内学生は2026年3月調査

4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点、希望する働き方

就職先企業を選ぶ際に重視する点を30項目から5つまで選んでもらい、国内学生の回答と比較した。留学生・国内学生とも1位「給与・待遇が良い」、2位「将来性がある」が共通しており、留学経験にかかわらず、多くの学生が重視していることがわかる。

「日本以外の国で働ける」「高いスキルが身に付く」「優秀な人材が多い」といった項目は、留学生の方が大きく上回っており、自身がスキルアップできる環境を求めていることが読み取れる。一方、「休日・休暇が多い」「福利厚生が充実している」「希望の勤務地で働ける」などの項目は、国内学生の方が上回っており、安心して働ける環境を求める学生が多いことがうかがえる。

就職先企業を選ぶ際に重視する点



※5つまでの複数回答
 ※全30項目のうち海外留学生の上位21項目

※国内学生は2026年1月調査

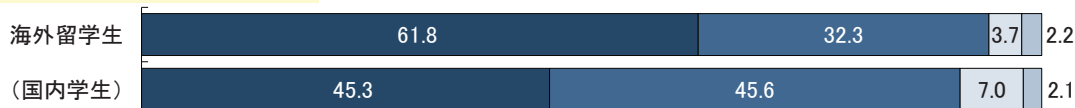
次に、就職先企業選びに下記の3つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生と比較した。

「(1) 仕事を通して成長できること」は、留学生の6割が「とても影響する」と回答(61.8%)。国内学生は半数未満(45.3%)で、その差が顕著。「(2) 多様性のある職場環境であること」も、留学生の方が「影響する」と回答した学生の割合が高い。反対に、「(3) 柔軟な働き方ができること」は、「影響する」の合計が国内学生で9割を超え(計91.6%)、留学生より関心が高い。

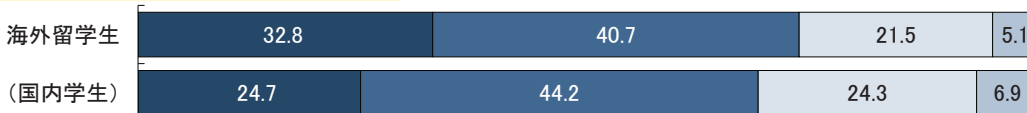
就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

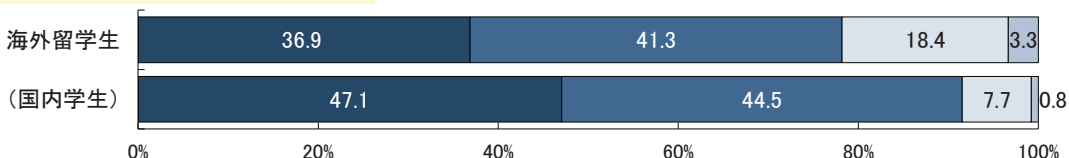
(1) 仕事を通して成長できること



(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること



※国内学生は2026年1月調査

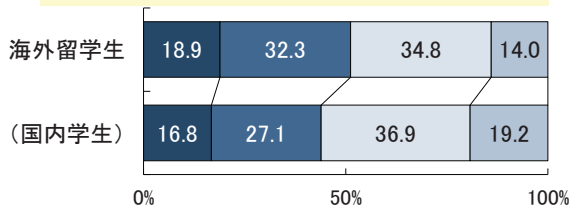
続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える留学生は51.2%で、国内学生(計43.9%)をやや上回る。「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」という留学生は8割超で(計82.9%)、自立的にキャリアを形成したいと考える留学生が大半だ。「仕事が多少忙しくても早く出世したい」は、留学生は6割を超えるのに対し(計67.3%)、国内学生は4割台にとどまる(計43.5%)。

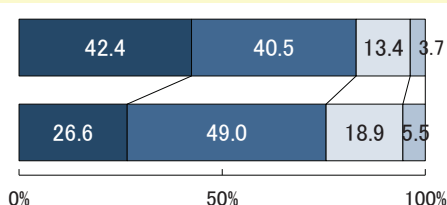
働き方についての考え

■Aに近い ■ややAに近い □ややBに近い □Bに近い

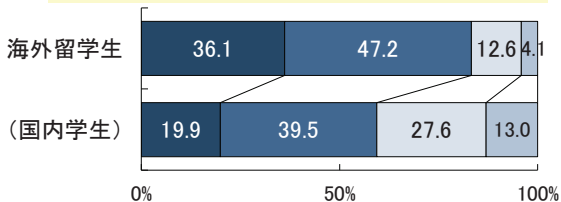
A. 1つの分野で専門性を高めたい B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



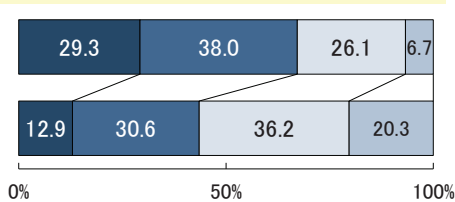
A. キャリアパスは自分で主導権をもちたい B. 会社に任せたい



A. 人よりも能力やセンスを評価されたい B. まわりから浮かないようにしたい



A. 仕事が多少忙しくても早く出世したい B. 出世するより自分のペースで仕事がしたい

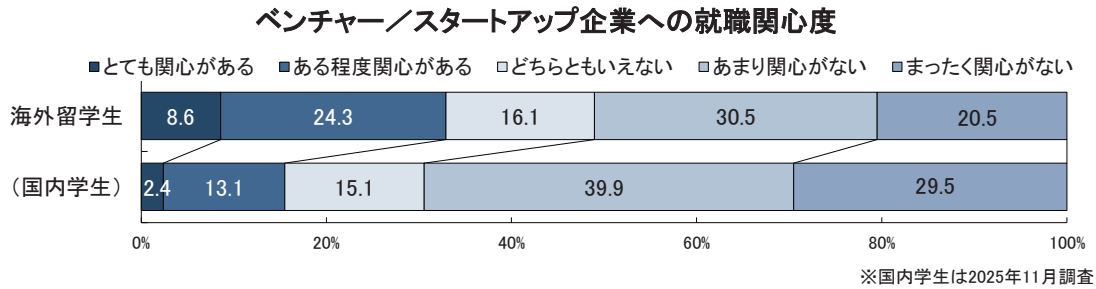


※国内学生は2026年2月調査

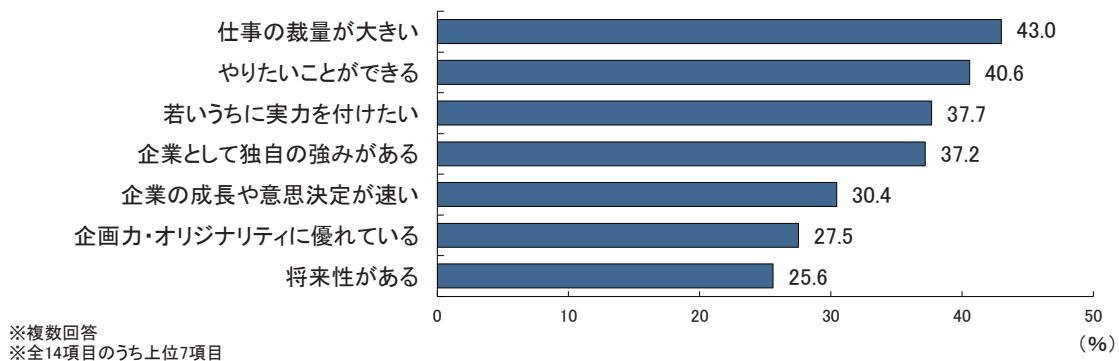
5. ベンチャー／スタートアップ企業への関心

留学生と国内学生の双方にベンチャー企業やスタートアップ企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」(8.6%)、「ある程度関心がある」(24.3%)を合わせて3割強が、ベンチャー企業への就職に関心があると回答した(計32.9%)。国内学生では半分以下にとどまる(計15.5%)。

留学生がベンチャー企業に関心を持つ理由として、「仕事の裁量が大きい」「やりたいことができる」「若いうちに実力を付けたい」などが上位に挙がった。スキルアップや自身の成長に重きを置く留学生にとって、若手から裁量権を持たせてもらえそうなベンチャー企業の環境は魅力的に映るのだろう。

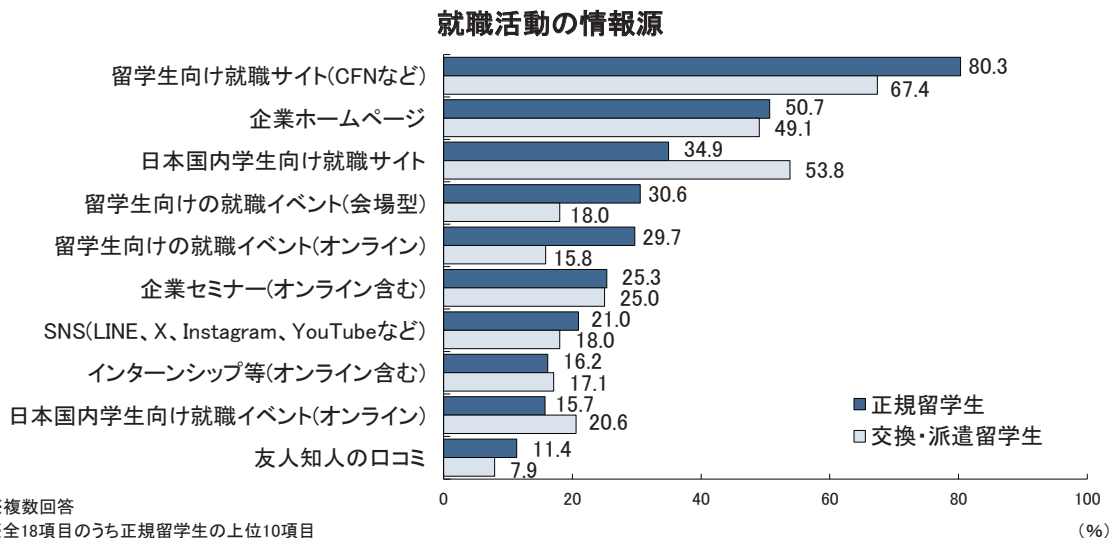


ベンチャー／スタートアップ企業に関心を持っている理由



6. 就職活動の情報源

就職活動の情報源を尋ね、正規留学生と交換・派遣留学生とで比較した。正規留学生の情報収集は「留学生向け就職サイト」が突出して高く(80.3%)、次に「企業ホームページ」(50.7%)が続く。交換・派遣留学生も「留学生向け就職サイト」が最多(67.4%)。「日本国内学生向け就職サイト」を半数強が選んでおり(53.8%)、併せて活用する学生が多いことが読み取れる。



7. 企業研究で入手しやすい情報／もっと発信してほしい情報

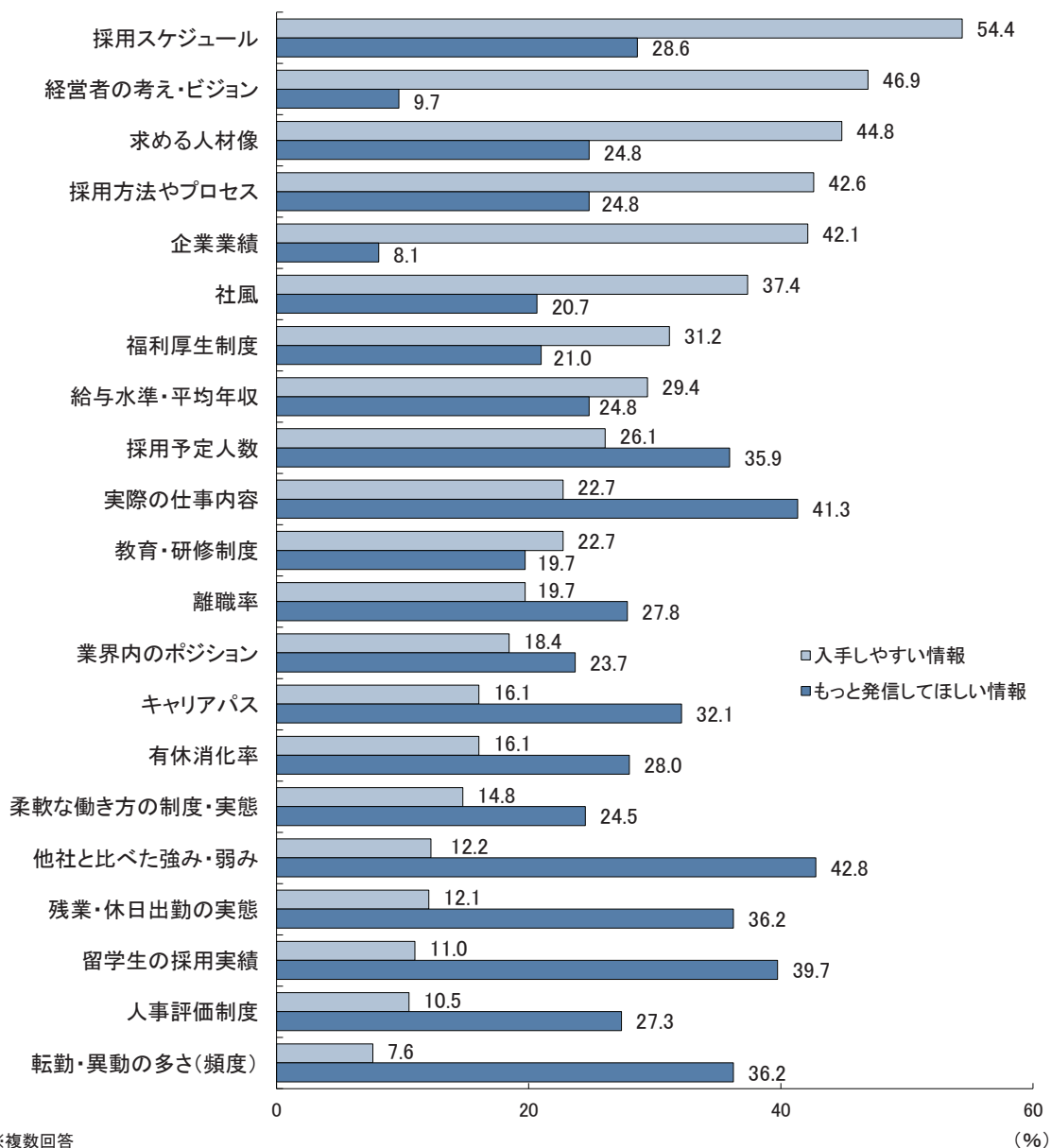
企業研究をする上で「入手しやすい情報」と企業に「もっと発信してほしい情報」を、項目をそろえて尋ね、比較した。

まず、「入手しやすい情報」として最も多いのは、「採用スケジュール」（54.4%）。「経営者の考え・ビジョン」（46.9%）、「求める人物像」（44.8%）、「採用方法やプロセス」（42.6%）、「企業業績」（42.1%）と続く。就職情報サイトや企業ホームページなどで公開されている情報が上位に並ぶ。

一方、「もっと発信してほしい情報」は、「他社と比べた強み・弱み」（42.8%）が最多で、「実際の仕事内容」（41.3%）、「留学生の採用実績」（39.7%）、「残業・休日出勤の実態」「転勤・異動の多さ（頻度）」（36.2%）の順に多い。より具体的な情報や実態を知りたいと考える人が多いことがうかがえる。

留学生は、国内学生と比べて企業と接点を持つ機会や情報入手ルートが限られており、様々な角度からの情報発信が求められていると言えるだろう。

企業研究をする上で入手しやすい情報／もっと発信してほしい情報



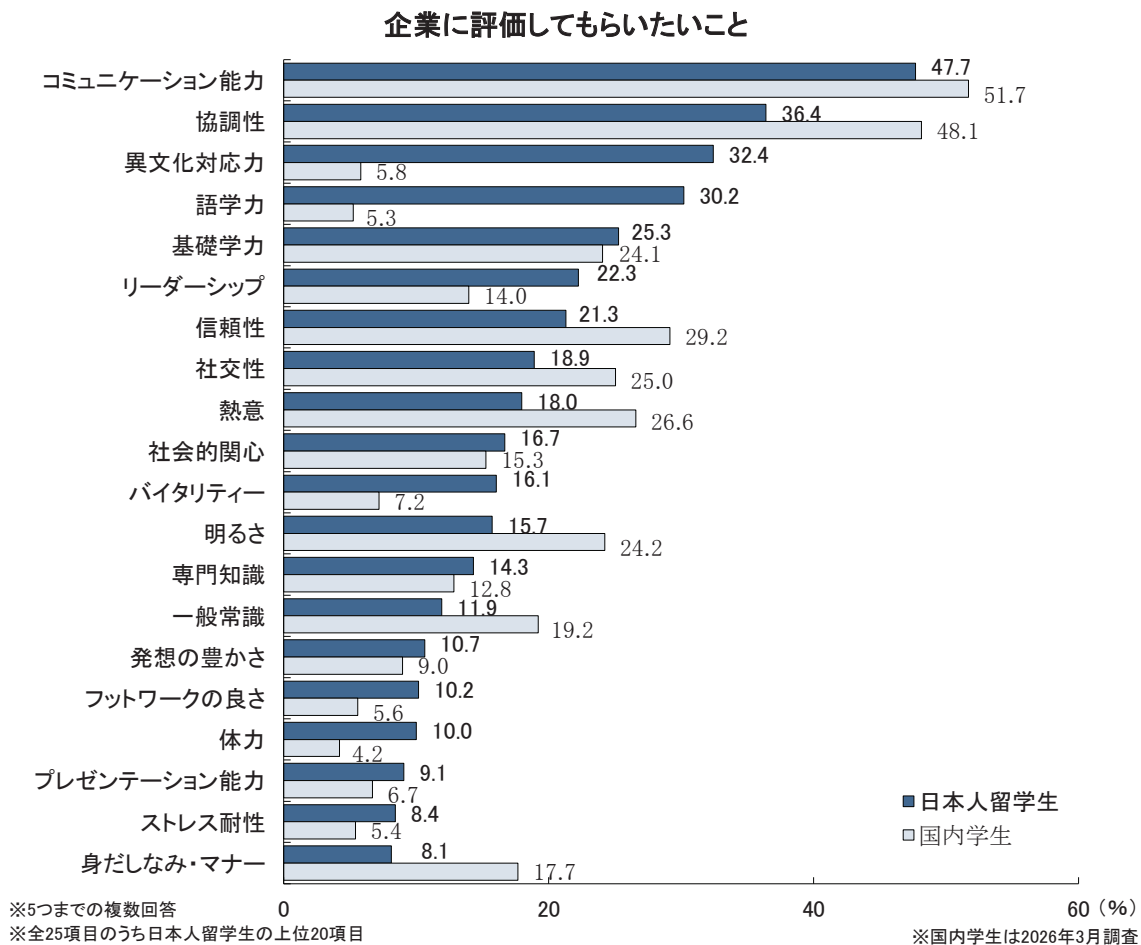
※複数回答

※全25項目のうち主なものを抜粋

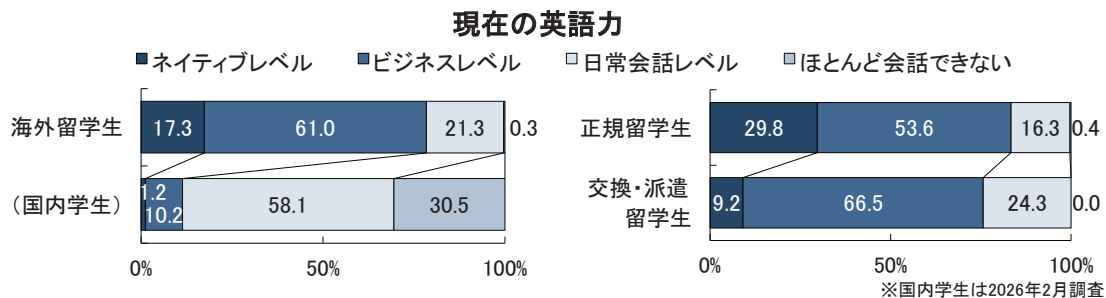
8. 企業に評価してもらいたいこと

採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生と比較した。最も多いのは、留学生・国内学生ともに「コミュニケーション能力」。留学生は、「異文化対応力」「語学力」「リーダーシップ」「バイタリティー」などの項目が国内学生より高い。留学経験を通じて向上させた能力やスキルを評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生は「協調性」「熱意」「明るさ」などのポイントが留学生よりも高く、人柄や会社に対する想いを評価してもらいたい学生が多いようだ。



なお、留学生の現在の英語力は、「ネイティブレベル」が 17.3%、「ビジネスレベル」が 61.0%と、ビジネスで英語を使うことができるとの回答が 8 割近くに上り（計 78.3%）、国内学生（計 11.4%）に比べ圧倒的に高い。

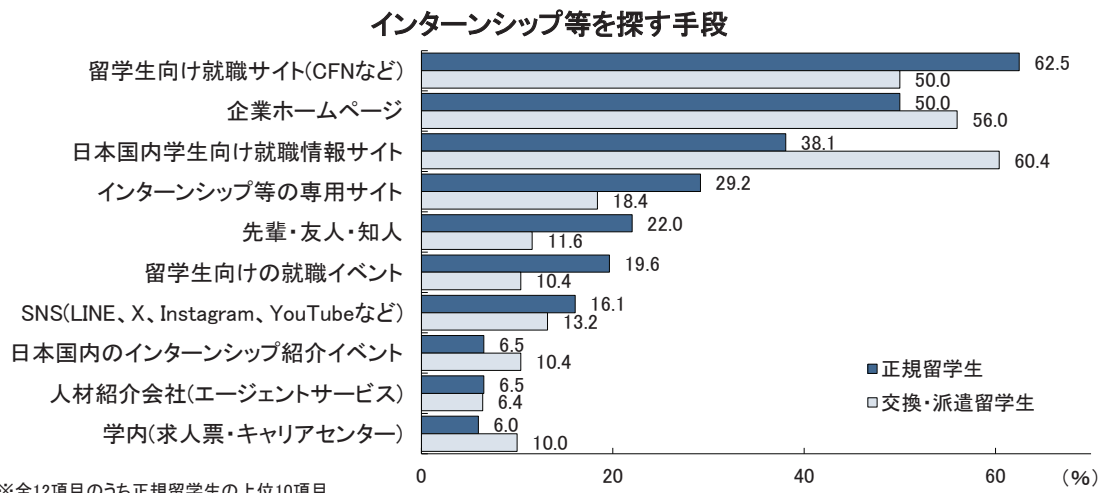
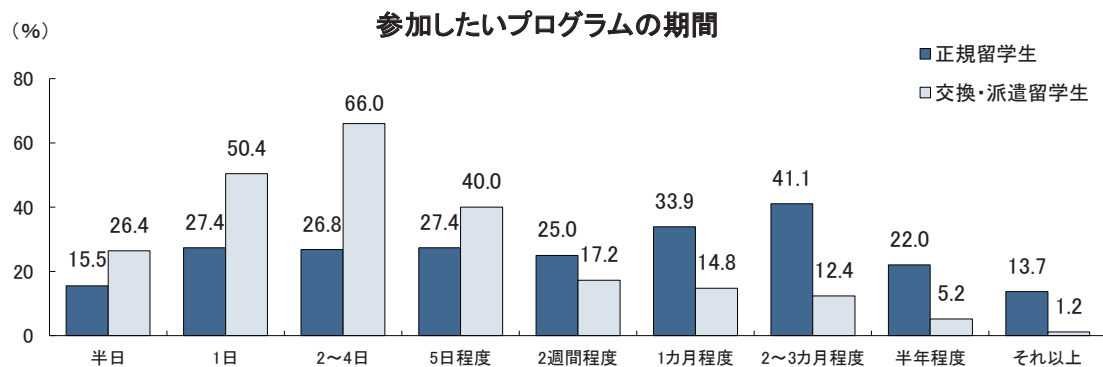
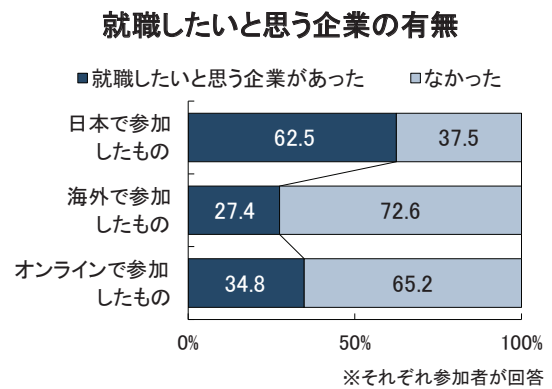
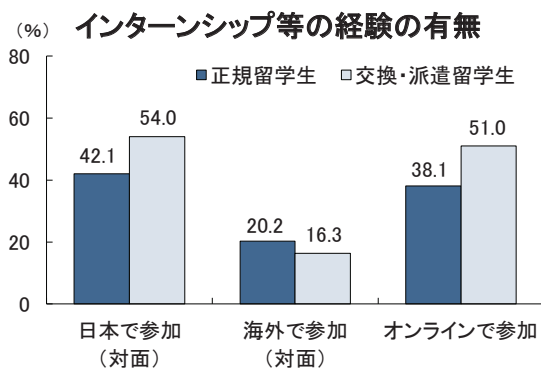


9. インターンシップ等の経験

インターンシップ等のプログラムへの参加経験を、就業場所・形式ごとに尋ねた。正規留学生は「日本で参加」「オンラインで参加」が4割程度あり、海外留学中でも一定数参加していることがわかる。交換・派遣留学生は「日本で参加」「オンラインで参加」ともに5割台。

参加企業の中に就職したいと思う企業があったかを、重ねて尋ねた。「日本で参加したもの」では6割超（62.5%）、「オンライン」では3割台（34.8%）が就職したい企業があると回答。インターンシップ等への参加をきっかけに就職先として志望する学生も少なくないことがわかる。

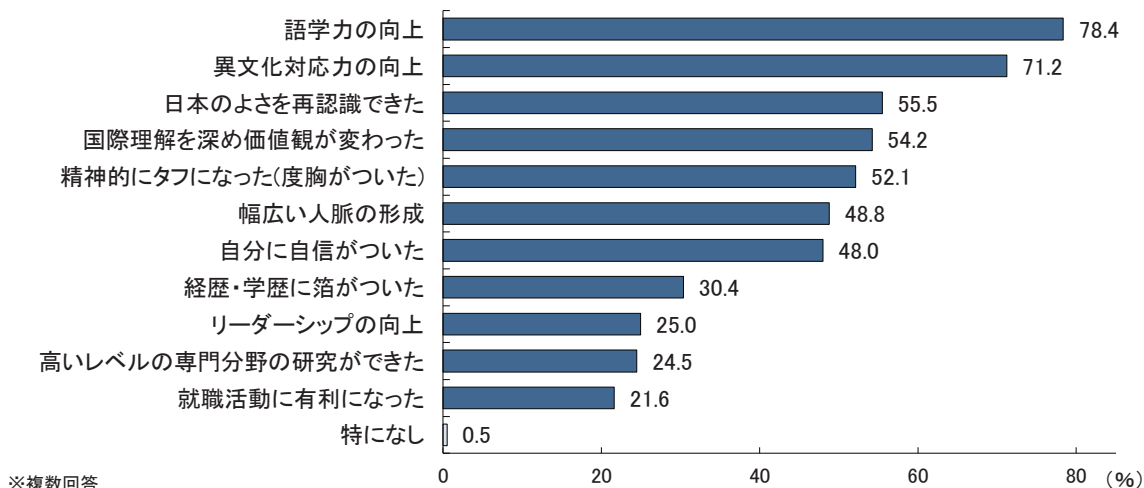
なお、場所や形式にかかわらず、どのくらいの期間のものに参加したいかを尋ねたところ、交換・派遣留学生は「2～4日」「1日」「5日程度」など短期のものが多いのに対し、正規留学生は「2～3カ月程度」が最多で、他に「1カ月程度」なども多く、長期プログラムへの参加を希望する割合が高い。



10. 留学をした感想

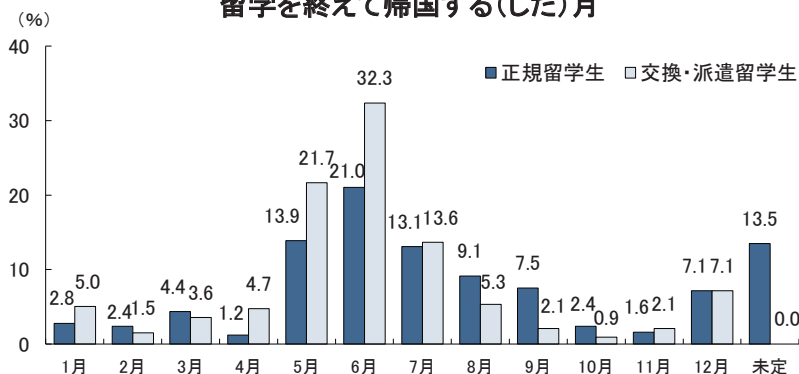
最後に、留学の成果を尋ねた。「語学力の向上」(78.4%)、「異文化対応力の向上」(71.2%)の2項目が7割を超え、高い。「日本のよさを再認識できた」(55.5%)、「国際理解を深め価値観が変わった」(54.2%)、「精神的にタフになった」(52.1%)などが上位に挙がり、グローバル人材として活躍する上での素養を、留学を通じて培うことができたと感じている様子がうかがえる。また、11項目のうち5項目が5割を超えており、多くの成果を実感している留学生が多いことが読み取れる。

留学したことのメリット



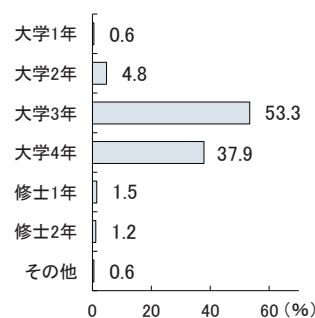
なお、留学を終えて帰国する時期は、正規留学生、交換・派遣留学生ともに5月と6月が多い。交換・派遣留学生の帰国時の学年は「大学3年生」が最も多く半数を超える(53.3%)。

留学を終えて帰国する(した)月



帰国時の学年

(交換・派遣留学生)



■留学して良かったこと

- 視野が広がったおかげで、色々なことに挑戦できるようになった。 <正規留学>
- 慣れない環境での生活で自立することができ、異文化適応力が鍛えられた。自信もついた。 <交換・派遣留学>
- 日本にはない先端技術やビジネスモデルを自分の目で見て肌で感じながら生活することで、日々刺激を受けることができ、新たな挑戦へのモチベーションにつながった。 <正規留学>
- 友達が増えた。海外での部活などいろんな挑戦ができた。語学力が伸びた。日本の魅力を再発見できた。自己成長できた。 <交換・派遣留学>
- 日本では起こらないようなトラブルを、苦として捉えない柔軟性やストレス耐性が身に付いたと感じる。 <交換・派遣留学>

■留学によるキャリア観への影響

- 留学先の国に関連する仕事、または言語を活かせる仕事をしたいと考えようになった。 <正規留学>
- 今後グローバルに展開していく方針がある企業に興味を持つようになった。 <交換・派遣留学>
- 世界のどこでも働けるタフネスと度胸が身に付き、興味のある業界の幅が広がった。 <交換・派遣留学>
- 単線的なキャリアを歩む必要はないと再確認できた。 <正規留学>
- 企業のブランドネームにこだわらなくなった。 <正規留学>
- 日本がより好きになったため、日本に貢献できる企業や官公庁に勤めたいという気持ちが強くなった。 <正規留学>
- もともと海外で就職することを考えて留学したが、愛国心が芽生え、日本企業に就職し、日本のプレゼンス向上に貢献したいと思うようになった。 <交換・派遣留学>

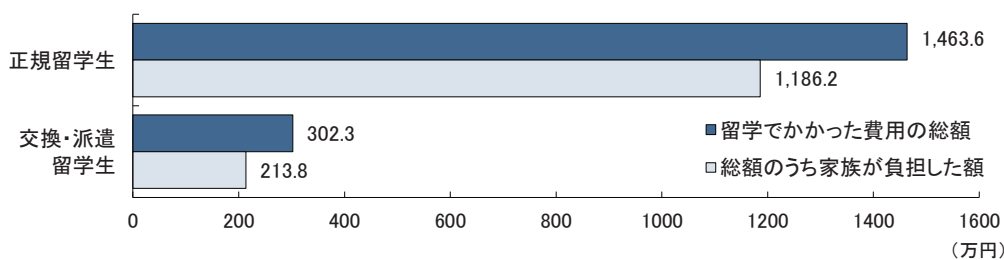
■留学中の就職活動で苦労したこと

- 夜中の3時や朝5時に参加せざるを得ない時があり、非常に厳しい。 <正規留学>
- 企業訪問やOB、OGと直接会うことができず苦労した。リアルな情報をなかなか得ることができなかった。 <交換・派遣留学>
- 現地の課題提出が大変な時期に日本の面接が入り、準備時間が削られる。WEBテストの環境（回線）も不安定なことがある。 <正規留学>
- 周囲が就活をしていないのでモチベーションが下がる。情報が集まらない。 <交換・派遣留学>

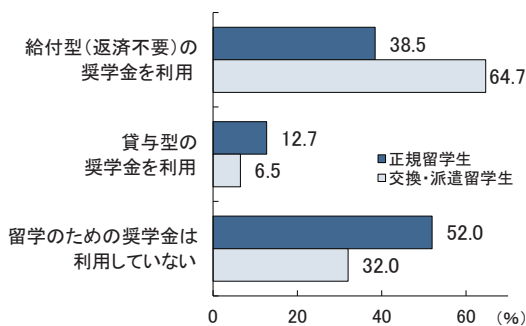
【参考】留学費用

留学費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額を尋ねた。正規留学生の費用の総額は平均1463.6万円で、留学期間が比較的短い交換・派遣留学生（302.3万円）の5倍近くに上る。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、平均で7~8割程度を家族が負担している。なお、留学のために奨学金を利用する学生も少なくない。

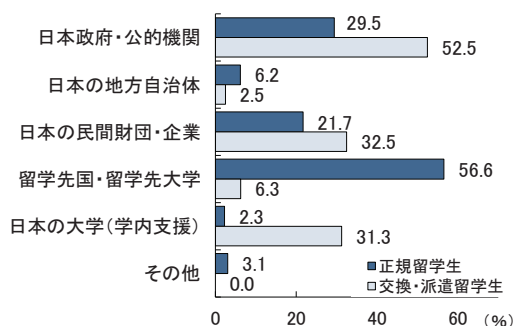
留学でかかった(かかる予定の)費用



留学のために奨学金を利用した経験



利用したことのある奨学金



※留学のための奨学金について回答